

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 千葉市教育研究会学校図書館部会

千葉市立千城台東小学校 出水 秀樹

主題 豊かな心と確かな学びをはぐくむ学校図書館

1 単元名

「伝記を読んで、本を紹介し合おう」（16時間扱い）

2 単元の目標

- 伝記というジャンルについて知り、自分が推薦したい伝記を選ぶために、複数の本を積極的に読もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 伝記を読むことを通して、自分に伝わってきたことを明確にし、理解することができる。 (読む能力)
- 興味をもった人物の伝記を読み通し、人物カードを書いて、友だちに伝記を紹介することができる。 (読む能力)
- 言葉の意味や役割を考えて本や文章を読むことができる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・伝記というジャンルを知り、自分のおすすめの伝記を相手に読んでもらうために、複数の伝記を読もうとしている。	・人物を選ぶ、人物について知るなどの目的に応じて伝記を読んでいる。 ・伝記を比べて読んだり、重ねて読んだりしている。	・伝記に書かれている言葉の意味を考えながら読んでいる。

4 単元について

(1) これまでの学習と学習教材について

高学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

これまで児童は、5年生の「読書すいせん会を開こう」の中で自分が推薦する本について、形を工夫して表現する活動を行った。「読書新聞」「ポップ」「帯紙」「ポスター」等である。それを見た人がその本を読みたくなるような内容、形式、言葉での表現の仕方を考えることができた。しかし、作品を見合った後のクラスでの本の貸し出し状況や児童の様子を見ると、本の世界を深め、読書の意義や楽しさについて実感したり、自分の読書について振り返り、自分の読書生活を見直したりする児童は少なかった。

教科書教材「伊能忠敬」は、日本で初めての日本地図を作り上げた伊能忠敬を伝記人物として取り上げ、彼が人生において経験したことを基に文章が書かれている。

伊能忠敬は49歳になってから学問の道を志し、天体暦学や天体観測に計算といった学問に真剣に

取り組んだ人物である。伊能忠敬の人生について知ること、積み重ねることの大切さ、やり続けていくことのすばらしさ、だれにでも大きな可能性があることに気づく。このような伝記を小学校卒業前に読むことで、たくさんの未来があることを児童につかませたいと願っている。伝記を読みながら、伝記人物の一生を歩むように感じ、自分の未来を想像することで、学ぶ意欲や努力することの大切さや喜びを実感できるようにしたい。

(2) 単元構成について

第一次では、学校図書館指導員や公共図書館職員によるブックトークで、伝記についての興味を高める。そして、「人物ドキリカード」について、教師が作成したものを紹介する。単元のゴール、「クラスの皆にイチオシの伝記を紹介する」ことを投げかけ、「自分も紹介したい」という気持ちを引き出させる。その後、教科書教材「伊能忠敬」で書き方を学び、自身の選んだ伝記人物のカードを作成するという学習の見通しをもたせる。並行読書する伝記については、単元導入前からあらかじめ教室内に展示しておき、児童の関心を高めておくようにする。また、児童がいくつかの作品を読み比べる時間を確保できるようにする。

第二次では、教科書教材で学んだ読み方がすぐに活用できるよう、「伊能忠敬」の学習Aの次に「自分の推薦する伝記人物」の学習Bを交互に進める「ABワンセット方式」の指導計画を組んだ。交互に読み進めることで、「伊能忠敬」で学習したことを生かして、「自分の推薦する伝記人物」の学習に見通しをもつことができるようにしていく。まず、教科書教材「伊能忠敬」で忠敬の行動を中心に年表を整理する。その後、忠敬がどのような人物なのかがわかる文を選び、人物像や生き方を話し合い、今の自分と比較し、自分とのつながりを考える。交互に「自分の推薦する伝記人物」においても同様のことを行う。第二次の最後には、忠敬の生き方から学んだことの発表会を行う。その後、「伊能忠敬」の「人物ドキリカード」を作成する。

第三次では、「伊能忠敬」で学習したことを生かし、伝記人物の「人物ドキリカード」を作成する。その後、カードを用いて、グループでカードを使って、伝記人物で紹介し合う。その後、学級で友だちが推薦する本を読み合う時間を設け、更なる交流を図っていく。

(3) 本単元で扱う言語活動

小学校学習指導要領・国語[第5学年並びに第6学年]「C読むこと」における(2)言語活動例「A伝記を読み、自分の生き方について考えること。」を踏まえ、本単元の言語活動として、人物ドキリカード作りとその交流を設定した。人物ドキリカードは読んだ伝記に描かれた人物の行動や生き方から学んだところや感動したところをまとめたカードである。人物ドキリカードを作る過程で、名言を抜粋したり、その人物の年表を作成したり、その人物に対する自分の考え方を記述したりしていく。その過程の中で、一人一人の児童に応じた読み方を支援していく。違う人物の伝記を比べ読む「比べ読み」や同じ人物の伝記を何冊か読む「重ね読み」などの読み方である。次に、カードを通して交流することで、友だちの読みを知り、自分の読みと比べながら再読し、新たな自分の読みを構築させる。したがって、人物ドキリカードを作成することは、伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見つけ、共感するところや取り入れたいところなどを考えることができること、また、考えを広げたり深めたりしながら、人物を多面的に捉え、自分の生き方を考え

るのにふさわしい言語活動だと考える。さらに、ドキリカードを使って交流することにより、さまざまな人物の伝記に触れることができる。読書の幅も広がり、読み方の技能も獲得することができ、今後の読書習慣につながっていくと考えた。

(4) 本単元でつきたい力

自分が推薦する伝記の人物の「人物ドキリカード」作りとその交流という言語活動を通して、小学校学習指導要領・国語[第5学年並びに第6学年]「C読むこと」における(1)指導事項「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」に関する知識や技能とこれらを活用できる能力を身につけさせたい。

国語教育指導用語辞典(教育出版 2009)の伝記の説明の中で横浜国立大学の高木まさき教授は、伝記指導の方法として以下のように述べている。「伝記を単なる事実と見ずに、作者の意図に従って『それにふさわしい挿話を選んでまとめた』作品と考え、指導過程の中に、作者はこの話(事実)をひくことで、その人物のどんな面を描こうとしたのか、また、作者は自分の描こうとしたことを強調するために、どんな言葉を使って表現したか、などの点について話し合わせ、読みの力をつけさせようとするものである。」

千葉大の寺井正憲教授は、伝記の持つ魅力について以下のように述べている。「その人物を選ぶということは、単なる無作為の行為ではなく、必ずそこに『縁』がある」

この単元では、たくさんの偉人と出会い、未来を夢に描くことができるように、複数の伝記を読んだり、友だちの紹介を聞いたりすることが大切だと考える。そして、人物ドキリカードを作り、その本を紹介しあう活動を通して、考えを広げたり深めたりする態度や読書の楽しさを知り、一人で読む読書につながっていく一歩としたい。

読書とは、自分で読んで終わりという自己完結型のものではなく、それを契機にして対話し、知を作り出していくものだと考える。これらの経験を繰り返すことによって、よりよい読書習慣につながっていくだろう。

(5) 研究の重点との関連(本年度の研究の重点)

- ①豊かな心をはぐくむ児童、児童の読書活動推進に関する研究
- ②確かな学びをはぐくむ学校図書館活用に関する研究
- ③学校図書館の運営に関する研究

○公共図書館との連携

公共図書館との連携では、三点行う。一点目は「伊能忠敬のブックトーク」である。事前に図書館職員と打ち合わせを行い、教科書の内容にちなんでブックトークを行っていただく。その際のブックトークでは、伊能忠敬の関連する本の紹介がある。伊能忠敬に関する本のみならず、地図の本、測量や天文学、数学など多岐にわたる内容である。これからの読書生活において、読書の幅をもたせるきっかけになると考える。

二点目は、公共図書館の利用である。これからの読書習慣を形成する際にも、公共図書館の存在

意義は大きい。今回の若葉図書館の訪問の際に、公共図書館利用カードの作成とともに、実際に本の貸し出しを行う。結果、ほとんどの児童が図書館利用カードを所持することとなった。児童と公共図書館がつながるきっかけになると期待している。

三点目は、中央図書館の団体貸し出しの利用である。団体貸し出し用の蔵書には、さまざまな伝記があり、今回の学習では、団体貸し出しを利用し、多くの伝記を借りることができた。児童の興味関心に合わせた伝記を用意することができ、児童にとって、たくさんの伝記に触れるきっかけとなった。実際に伝記を手に取り、どのような人が伝記人物になっているのかを知ること、伝記に対する興味を高めることや伝記にも、さまざまなジャンルがあることに気付くことができると考える。

○学校図書館指導員・学校図書館との連携

単元の導入として「伝記」をテーマにブックトークをしていただく。「もっと知りたいな。あのあこがれの人のこと。」と題をうって、内容も児童に身近なサッカー選手を取り上げるなど、児童の伝記への興味関心を高めるきっかけとなると考える。さらに、伝記教材の確保に関して、他校の本や公共図書館の本の用意もしてくださる予定である。学校図書館指導員の活用は、国語であれば「きつねの窓」安房直子の学習の際にも連携を計画中であり、他教科での活用も図る。こうしたT2としての授業の参加により、児童と学校図書館指導員が気軽に本の話をする姿が多く見られ、休み時間に図書室を利用する児童が増えると考えられる。

5 児童の実態

図書室の貸し出し数を調査した。4月・5月の貸し出し数はクラス平均で約6冊である。本の貸し出しスタートが4月中旬からだったことから考えても少ない数字である。さらに、6月に2週間の読書量調査を行った。これは、家での読書も含んだものである。平均読書冊数は約3冊と千葉市の平均である13.7冊を大幅に下回っていた。

学校から約5分の距離に千葉市立若葉図書館がある。学区外であるが、近い距離である。それでも、千葉市の図書館利用カードを持っている児童はクラスの2割であった。カードを持っている児童も、年に数回程度の利用が大半である。

さらに課題を明確にするために9月に行った実態調査からは、多くの児童が本を読むことについて抵抗があるわけではないことがわかった。確かに図書室利用や読書量は少ないが、ブックトークなどの反応を見ると本に対して抵抗がある児童はいない。ただ、読書が習慣化されていないと考える。そのため本への興味をもたせ、その興味を持続させることが必要となる。学校図書館指導員のブックトークと公共図書館職員によるブックトーク、教師による読み聞かせを行い、本単元へのきっかけづくりを丁寧に取り入れたい。

本学級の児童は、友だちが読んでいた本に興味をもちやすく、題や表紙といった視覚の情報をもとに本を選択する傾向がある。また、ポップ作りやポスター作りを好む児童も多い。そこで、今回は教科書教材「伊能忠敬」と自分が推薦する伝記の「人物ドキリカード」を使って、伝記を紹介する学習を設定した。友だちからの推薦であり、視覚的にもわかりやすい「人物ドキリカード」は、本学級の児童に合った学習であると考えられる。

「人物ドッキリカード」は担任のモデルを示し、具体的なイメージを児童にもたせる。さらに、単元として、ABワンセット方式を採用し、共通教材「伊能忠敬」と自分が推薦する伝記を反復して取り上げる。学習の流れを同様にする事で単元を貫く言語活動である「人物ドッキリカード」を作るという意識を常にもたせながら学習を進めていく。作った「人物ドッキリカード」は友だちに伝記を推薦するときに使用し、その後、図書室で掲示されることを知らせ、目的意識をもたせて学習に取り組ませていく。

6 単元の指導計画

次	時	主な学習内容	指導上の留意点(○)と評価(※)
一 次		並行読書として、興味をもった人物の「伝記」を読 んでいく。	○学級文庫に伝記のブックトラック を置き、児童が手に取りやすいよう にしておく。
		<p>具体的な単元のゴールのイメージをもつ。〔第1次〕</p> <p>教師による演示によって、「伝記を読んで、本を紹介し合おう」という単元を貫く 言語活動の見通しを持たせる。</p>	
二 次	1	・ 図書館職員のブックトークを聞き、伊能忠敬や その関連する本の紹介を受け、伊能忠敬に興味 を持つ。	<p style="text-align: center;">並 行 読 書</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
	2	・ 学校図書館指導員のブックトークを聞き、どの ような伝記人物がいるのかを知り、伝記に興味 をもつ。	
	3	・ 伝記を推薦する際に用いる「人物ドッキリカード」 の見本を基に、内容や形式を確認する。	
			<p>○伝記とはどういうものであるのか、 伝記はどのように読んでいくのが いいのかを確認し、並行読書する伝 記を紹介し、読書を進めていくよう にする。</p> <p>○伝記の読み方のコツを知らせる。 ○担任のモデルを見せることにより、 自分も作りたいという気持ちをも てるようにする。</p> <p>○ドッキリポイント・挿絵・名言や選ん だ理由・業績・伝記の題名をのせる ように伝える。</p> <p>○人物を選択するために、伝記を多読 できるようにする。</p> <p>※伝記にはさまざまなジャンルがあ ることに気付く。</p> <p style="text-align: right;">〔関心・意欲・態度〕</p>

教科書教材「伊能忠敬」で人物カードの書き方を学ぶ〔第2次〕

教材文「伊能忠敬」を読んで、行動を年表にまとめたり、感動したところや見習いたいことに線を引いたりする。忠敬の生き方や自分とのつながりを考える。
その後、人物ドキリカードを作成する。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材「伊能忠敬」を通読する。 ・自分の好きな伝記を選び、並行読書していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○印象に残ったところに線を引く。 ○章ごとに発表させながら、クラス全体で忠敬の年表を確認していく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事と伊能忠敬の行動を確かめながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を基に、自分が選んだ伝記人物の出来事や行動を確かめながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ※人物ドキリカードを書くために複数の本を読んでいる。(読む能力)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・時や出来事、忠敬の年齢と行動を年表で整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感動したところに付せんを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に引いた線の中で特に着目させたい箇所と書き込みの仕方を教える。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・忠敬がどのような人物 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を基に、伝記の人物の人生のポイントとなる文章をさがし、人物像を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伊能忠敬」で学んだことを手がかりにして自分が選んだ伝記人物のシートにまとめさせていく。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・忠敬と自分とのつながり(共通点や相違点を見つける)を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝記の人物と自分とのつながりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の選んだ人物について、重ね読みや部分読みをしながら、事実として正しいのかを確認しながらまとめるように支援する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・忠敬の生き方についてドキリポイントをまとめ、人物ドキリカードの構成を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ※出来事、行動、会話の表現を手がかりにして、人物の心情、性格、考え方を想像している。(読む能力)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・伊能忠敬の生き方から感じたことの発表会を行う。(グループ、全体) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ドキリポイントは、印象に残ったところや感動したところを3つ程度の文でまとめるようにする。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・伊能忠敬の人物ドキリカード作成に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ○伊能忠敬の人物ドキリカードは、掲示し、読み合えるようにしておく。
12			<p>(課外)</p>

三 次	自分が選んだ人物のカードを作成し、紹介し合う〔第3次〕 自分のお気に入りの伝記からその伝記人物の人物ドキリカードを作り、それを基 にグループで伝記を紹介し合い、伝記を読み合う。	
	13 14	・自分の選んだ伝記人物のドキリポイントをまとめ、 カードの構成を考え、人物ドキリカードを作成す る。交流会での発表原稿を作成する。
	15	・グループで交流会を行う。交流会後、人物ドキリカ ードは黒板掲示し、お互いに読み合う。
16	・人物ドキリカードをもとに、友だちの推薦する伝記 の読書を行う。読み終わったら一言感想をカードに 貼る。	○「伊能忠敬」で学んだことを基に、 自分が本から学んだ人物の生き方 のヒントや自分の考えを広げたり 深めたりできるようにする。 ※自分の選んだ人物の生き方につい て理解し、自分の共通点・相違点 を見付け、自分の考えをまとめてい る。(読む能力) ○交流会では、伝記を読んで、その生 き方から学んだことを中心に発表 を行う。 ○グループの代表者は全体で感想な どの発表を行う。 ○お互いに選んだ人物について意見 を交流できるようにする。 ※友だちが選んだ伝記人物について、 進んで本を読み、感想をもとうとし ている。 (国語への関心・意欲・態度)

7 本時の活動（15／16）

（1）本時の目標

- ・伝記を読んで、伝記に描かれた人物の生き方から共感するところや取り入れたいところについて自分の考えをまとめたドキリカードを発表し合うことで、自分の考え方を広げたり深めたりすることができる。
(読むこと 才)

（2）本時の学習活動

本時の学習では、単元を貫く言語活動である「人物ドキリカード」のポイントとなる「ドキリカード」を使って、自分が推薦する人物の生き方から感じたこと学んだことを交流する学習内容となる。伝記人物を推薦するという言語活動は、学習指導要領では、高学年において全ての領域で言語活動例として記載されている。本時では、推薦対象となる人物の良さを十分理解した上で、皆に納得してもらえるような「ドキリポイント」をまとめ、それを書き入れた「人物ドキリカード」を使って伝記を紹介し合う。

「人物ドキリカード」は一人の読者が、多数に広がることを期待しての活動である。読書生活を充実させるためには、教師の働きかけと環境の整備も大切であるが、友だち同士の関わり合いも大き

な影響力をもつ。教師からの推薦本にあまり乗り気ではない子どもたちが、友だちからの推薦で読む気になることはよくある。読書が自分一人の完結で終わるのではなく、お互いに触発されていく活動になるように丁寧に支援していく。

(3) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・支援・評価 (※)	教材等
2	1 前時の学習を振り返り、めあてを確認する。 人物ドキリカードを使って、人物の生き方から学んだことや感じたことについて交流しよう。	○グループで交流会を開くことを伝える。	
3	2 交流会の仕方について確認する。	○伊能忠敬で行った交流会を振り返らせる。	模造紙
2 5	3 グループ毎に交流会を行う。 ○初めの挨拶をする。 ○本の題名・作者・伝記人物名を紹介する。 ○ドキリカードを使って紹介する ・人物との関わり (共通点や違う点、人物を選んだ理由) ・生き方から学んだこと ・業績やドキリポイント ・どうしてそこまでできたのか。 ○感想や意見、質問をする。 ○終わりの挨拶をする。	○自分の机の上にブックスタンドを置き、友だちに伝記の本を見えやすいようにしておく。 ○発表に抵抗のある児童には、カードの裏に貼った発表原稿に沿って紹介を進めるよう支援する。 ○質問や付け足しなどで積極的に意見交流できるように促す。 ○友だちの発表を聞いて「納得、なるほど」と思ったことをメモしてもよいことを呼びかける。 ○交流会が早く終わったグループには、本を交換し、読み合ってもよいことを伝える。	伝記 ブック スタン ド 人物ド キリカ ード ワーク シート
5	4 交流会を振り返り、グループで交流したことを全体場で共有する。	○グループの代表者は全体で感想などの発表を行う。 ○次の時間は、気になる伝記人物の本を読むことを伝える。 ※伝記で学んだことを基に、自分で選んだ本の人物を意欲的に紹介しようとしている (関心・意欲・態度) 【発表】	
1 0	5 交流会の感想や読書に生かしたいことをシートに記入する。 人物ドキリカードを黒板に掲示する。	○人物ドキリカードを掲示し、その伝記を読みたいという意識をもてるようにする。 ※発表し合うことで、自分の考え方を広げたり深めたりすることができる。 (読むこと) 【ワークシート・発表】	